

[閉じる](#)

## 現代英米文学特殊講義ⅠA

サブタイトル	女性たちの公共圏 ― イギリス近代社会の位相と小説
担当者名	大石 和欣
単位	2
年度・学期	2022 春
曜日時限	水4
キャンパス	三田
教室	353-B
授業実施形態	対面授業（主として対面授業）
登録番号	23787
設置学部・研究科	前期博士課程（修士課程）文学研究科
設置学科・専攻	英米文学専攻
学年	1, 2
分野	修士課程科目文学研究科科目
K-Number	GLT-EL-67213-211-02

[▼詳細](#)

### 授業科目の内容・目的・方法・到達目標

この授業では、いわゆる公共圏における女性の立ち位置をイギリス近代社会において確認しながら、18世紀末から19世紀末における文学作品のなかで女性と公共圏の関係、およびそれに絡んだ諸問題がどう立ち現れているかを検証していきます。

ユルゲン・ハーバーマスが1960年代に提示した公共圏論は80年代に英訳されると、イギリス文学研究においても大きなインパクトを与えることになりました。しかしながら、ハーバーマスの『公共性の構造転換』における最大の瑕疵として女性について議論されていない点が研究者から指摘され、とりわけ社会史研究においてイギリス近代における女性と公共圏の関係について批判的検証がなされていくことになりました。この授業ではそうしたイギリス近代における公共圏と女性との関係についての社会史的研究成果を俯瞰しながら、18世紀末から19世紀末にいたる小説を読解していきます。

この時代の女性たちは一般的には政治や経済の領域からは排除されていたことは確かですが、だからといっていわゆる「公（public）」の領域、ハーバーマスの言う「公共圏」において役割がなかったわけではありません。自分独自の財産がないとしても旺盛に消費活動に関与していましたし、社交を通して一定の範囲ながら社会的影響力を保持していましたし、チャリティ活動などを通して地域において重要な役割も担っていました。文壇や教育の領域においても、制限はありながらも女性は活動を認められていたことも確かです。そうした活動は必ずしも男性の公共圏とは異なる次元で公共性を持っていました。イギリス近代における小説にもそうした複雑な女性にとっての公共圏が立ち現れています。それらを一一つとりあげて考えてみたいと思います。

毎回の授業では対象とするテキストや作品について読解を行い、女性と公共圏の関係について考察していきます。毎回、事前に決められた発表担当者は与えられたテキストにおける公共圏について考察を提示します。その後、教員やほかの学生からの質疑応答を行い、教員から補足説明と一歩踏み込んだ考察を提供します。扱うテキストや作品については予習の際には翻訳を使っても構いませんが、授業では原語テキストを用いることにいたします。

文学研究にはさまざまなアプローチが可能ですが、この授業では同時代の社会について「公共圏」という社会学的テーマに沿って歴史的文脈に沿って検証していくことで、文学研究の一つのパターンとその方法論的技術を学んでいきます。

### 授業の計画

#### 第1回

ユルゲン・ハーバーマスの『公共性の構造転換』を読解する

#### 第2回

公共圏と女性たち

ハーバーマスの議論に対してフェミニズム的観点からの反駁が提示される。それらについて再検証を施す。

#### 第3回

メアリ・ウルストンクラフト『女性の権利の擁護』

#### 第4回

ジェイン・オースティン『説き伏せられて（Persuasion）』

#### 第5回

奴隷貿易反対運動に関わった女性たちとその言説

#### 第6回

アン・ラドクリフ『ユドルフォ城の秘密』

#### 第7回

シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』

#### 第8回

アン・ブロンテ『アグネス・ 그레이』

#### 第9回

ウィリアム・メイクピース・サッカレイ『虚栄の市』

#### 第10回

チャールズ・ディケンズ『荒涼館』

#### 第11回

エリザベス・ギヤスケル『北と南』

#### 第12回

ウィルキー・コリンズ『白衣の女』

#### 第13回

ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』

#### 第14回

トマス・ハーディー『ダーヴァヴィル家のテス』

#### その他

それぞれの作品についての研究や批評については、オンデマンド等での教材提供を考えている。

### 成績評価方法

出席と発言・授業態度 50%、発表25%、レポート25%

### テキスト（教科書）

毎回の授業において必要な資料リストを提示する。

### 参考書

初回の授業で配布する。

### 担当教員から履修者へのコメント

毎回の作品を読むことを楽しんでください。

### 質問・相談

質問や相談があれば kazoishi@keio.jp にご連絡ください。